

プロジェクト名：ブラジル国トカンチンス州北部地域農牧開発計画調査

(調査期間：2000年3月～12.0ヵ月、担当業務：営農栽培)

調査背景

トカンチンス州はブラジル連邦国北部に位置し、州面積 27.8 万 Km² を有するものの未だ十分に開発されていない豊富な自然資源を有している。当州の持つ自然資源を有効に活用し持続的経済開発を進めるために、州政府は 1997 年から 98 年にかけて JICA による技術協力を受け、農牧業総合開発計画調査を策定し、さらにこの一環として北部地域農牧開発計画調査を要請した。実際には、北部地域（約 3.7 万 Km²）を対象として、環境保全に配慮した農業及び畜産業の振興、生産組織の確立、農村生活環境の改善を目標とした農業総合開発計画における M/P 調査及び優先地区における F/S 調査を実施した。

調査概要

調査地域の農業は畜産業主体であり、数千ヘクタールの土地を所有する少数の大農が肉牛生産を中心に牧場を経営している。一方、多くの貧しい小農にとっては荒地に火入れをして自給用の作物を生産し、跡地を牧草地に変えて行くという営農が一般的で、こうした焼畑農業が大きな環境問題にもなっている。従って、「すでに開拓された草地をいかに有効に活用し、残された森林をいかに保全するか」といったことが本調査の大きな課題であった。こうした現況を改善するために、大農による牧草地への穀物生産導入計画及び小農による集団集約営農計画に環境保全関連事業を組み合わせた総合的な農業開発計画を提案した。

担当事項

- 対象地域の土壌土地利用、営農状況、農家経済、農民組織に関する情報収集及び解析。
- 適地適作の考え方や市場予測に基づいた導入作物の検討ならびに生産計画の策定。
- 零細・小規模生産者の生活向上を目指した集団集約営農計画の策定。
- 優先地区における農業現況の調査ならびに開発計画の策定。

